

東証一部
8058

三菱商事

レーティング 前回 今回
(00/11/9) 2(+) 1

< 商 社 担 当 : >

...合理化効果と新規ビジネスの拡大により業績回復定着、今年度も実質増益基調維持

【要約】三菱商事は、他の総合商社に比べ、情報化社会への対応力や新たなビジネスへの種まきと、その収穫を目指した機能を拡大させてきている。MC2003で進める「選別経営と戦略分野の強化」を狙った経営戦略の実施が、今後、三菱商事の収益を大きく拡大させる余地を高めていると思われる。

決算期	売上高 百万円	伸び率	営業利益 百万円	伸び率	経常利益 百万円	伸び率	当期利益 百万円	伸び率	EPS 円	CFPS 円
<連結 業績>										
01.3	13,995,300	6.7	78,138	42.9	131,898	325.0	92,105	253.9	58.77	101.99
02.3新・予	14,300,000	2.2	85,500	9.4	135,000	2.4	85,000	-7.7	54.24	97.12
新・会社	14,200,000	1.5	NODATA	-----	110,000	-16.6	80,000	-13.1	51.05	-----
03.3予	15,800,000	10.5	90,000	5.3	155,000	14.8	110,000	29.4	70.19	114.22
<単独 業績>										
01.3	10,927,420	4.2	21,623	-22.9	80,583	3.8	28,760	黒転	18.35	20.00
02.3新・予	10,350,000	-5.3	22,000	1.7	45,000	-44.2	25,000	-13.1	15.95	17.26
旧・み調査	0	-100.0	0	-100.0	0	-100.0	0	-100.0	#DIV/0!	#DIV/0!
新・会社	10,300,000	-5.7	NODATA	-----	40,000	-50.4	20,000	-30.5	12.76	-----
03.3予	12,000,000	15.9	28,000	27.3	50,000	11.1	50,000	100.0	31.90	33.72

株 価 指 標		単 独		連 結			
株 価	(6/4)	980 円	PER	(倍)	02.3予	61.4	18.1
年初来高値	(5/28)	993 円			03.3予	30.7	14.0
年初来安値	(3/15)	693 円	PCFR	(倍)	02.3予	56.8	10.1
発行済株式数	(6/4)	156,718 万株			03.3予	29.1	8.6
時 価 総 額	(6/4)	15,358 億円	PBR	(倍)	01.3実	2.0	1.6
			ROE	(%)	01.3実	4.3	9.8

1. 今後注目される三菱商事の経営戦略

三菱商事は、今年度から新たな中期経営計画「MC2003(2001年度～2002年度)」を進めることを通じ、「攻めの経営」に転換する。前期まで進めてきた「MC2000・1998年度～2000年度」では、「全社機能の強化」・「リスクマネジメントの強化」・「高コスト体質の変革」・「人事制度改革」などを進めほぼ計画値を達成した。

三菱商事はこうした経営改革と平行して、今後、「選別経営と戦略分野の強化」を進めることを通じ、「攻めの経営姿勢」を一段と鮮明にする。このことは、三菱商事が考える事業ポ-トフォリオの再構築を背景に、総合商社機能の更なる拡大に向けた戦略に打って出ることを物語っている。「事業ポ-トフォリオの再構築」や「新規ビジネス」を支える新たな組織形態の構築(新規事業G)を通じ、三菱商事は、2年後の2003年3月期に当期純利益1,000億円台の体制を確立する可能

本資料は、投資判断の参考となる情報提供を目的としたもので、投資勧誘を目的として作成しておりません。投資に際しての最終決定はお客様ご自身でなさるようお願い致します。当該銘柄の業績見通しについては、今後の周辺調査・会社訪問等の結果、変更される可能性があることにご注意下さい。

性が、高まりつつあると考えられる。

現在、三菱商事は、これまでの「縦割り型の組織形態」を、組織横断的な行動が出来る「**新機能事業グループ**」といった新たな組織を作り、変化が激しい情報化社会の中で、ビジネスチャンスの拡大を目指している。三菱商事はこうした組織の構築と、過去3年にわたり構築してきた「**リスクマネジメント体制の強化**」を連動させることで、現在抱える**既存の事業資産を「優良資産に組み替え」る体制を、着実に構築しつつある**といえる。こうした経営体制の構築は、当社が強固な営業基盤を持つ「**燃料・機械・情報産業部門**」の更なる**資産効率のアップ**につながると考えられる。こうした効果を背景に、今後、予想されるキャッシュフローの増加を、I P PやS C M（サプライチェーン・マネジメント）の構築や、金融事業・コンビニエンスビジネス・I T Fなどといった新たなビジネス投資に振り向けることを通じ（詳細は以下で説明）、今後、**新たに400億円程度の利益を生み出す可能性が高い**。優良資産への組み替えで新たに200億円程度を、金融事業ビジネスの強化やC V Sビジネスの拡大などで新たに200億円程度の利益が加わる可能性が高い。

2. ロ - ソンへの出資は、三菱商事の「経営戦略の中核と新たなビジネス展開」の原動力に

三菱商事は、新たな中期経営戦略「MC2003」で、新たな事業ポートフォリオの構築を目指す攻めの経営に打って出るが、その中でも特に注目されるのが、**ロ - ソンへの出資をベ - スとした商社機能の強化**である。三菱商事は、ロ - ソンに2,800億円もの巨額の出資を行ない、筆頭株主としてロ - ソンの企業価値の向上に取り組んでいる。ロ - ソン経営への出資に対し、マ - ケットは依然としてその効果に疑問を抱いている。ただ、先行きの展開を見ると、ロ - ソンへの出資が、三菱商事の「**新たな商社機能の強化**」に大きく貢献する可能性が高いと考えられる。

その要因として、**三菱商事がコンビニエンス・ストア（C V S）ビジネスを通じ、先行き実現させようとしている経営が、川下分野での情報機能の強化や、コンビニ店舗といった拠点をベ - スとしたプロ - ドバンド時代に促したビジネスの拡大が、三菱商事の収益拡大にプラス効果を及ぼす可能性が高いからである。**

•

三菱商事は、既に、**C V Sビジネスの強化策とともに、今後企業がアウトソ - ソングすると考えられる分野に「新たな事業会社」を配備するなど、その体制固めが進展している**。特に、他の小売業態に比べ圧倒的に消費者との接点を多く持つC V Sとの取引拡大（ロ - ソンだけに止まらない）は、プロ - ドバンド時代に求められる消費者情報の把握と、**消費者との接点が図れる拠点（店舗）数の拡大**を意味する。**拠点数の拡大が、プロ - ドバンド化の進展で出現してくると考えられる「新たな情報機器」や「金融機能機器」の設置などを通じ、他の総合商社に比べ拠点数の多さだけ、新たなビジネスチャンスの拡大を進められる体制を構築しつつある**と考えられる。ロ - ソン以外のC V Sを巻き込んだコンビニ店舗の拡大は、新規ビジネスの損益分岐点を引き下げることになり、結果的に、収益拡大を早期に実現しやすい環境を形成することにもつながると思われる。